2022年2月18日

十勝岳ジオパーク推進協議会
会長　角和　浩幸　様

日本ジオパーク委員会
委員長　中田　節也

第44回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2022年1月28日に行われた第44回日本ジオパーク委員会において、貴地域は新規認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

十勝岳地域は、北海道の中軸部をなす幌内山地、鮮新世～更新世の大規模カルデラ噴火による火砕流堆積物からなる丘陵、現在に続く十勝岳の火山活動、高山地域の周氷河環境などが特色であり、大正時代に発生した火山性泥流による災害経験とそこから復興し現在の農産地へ発展させた歴史を有します。2017年に実施された新規認定審査では認定見送りの結果を受けましたが、その後の4年間で課題とされた運営体制が大幅に改善され、地域全体が一体的に運営されるとともに、ジオパーク活動への理解が地域住民をはじめ、観光協会、教育機関など、様々な関係者に浸透しつつあることが確認できました。また、国立公園との連携による保全活動、国土交通省の施設との連携による拠点施設の整備など、ジオパークと国の機関との連携が進んでいます。

【優れている点】

ジオパーク活動に積極的な住民によって結成された「十勝岳ジオくらぶ」の会員は、イベントなどで率先して十勝岳地域の宣伝に協力し、道内他地域とのネットワーク活動や全国大会への参加など、ジオパークの推進役として精力的に活動し、ジオパークに関わる住民の輪を広げています。ジオパークと住民団体、民間施設、学校などとの連携を通して、大正泥流を経験した地域としての減災教育や、土づくりの苦労や技術革新など農業や土壌環境に関する地域学習、アイヌ語地名を生かしたツーリズムの展開など、ジオパークを通じた多様な活動の発展が期待できます。新型コロナウイルスの影響下、各専門部会の協力のもとで開催されたフォトコンテストでは2か年で6,300件を超える作品応募がありました。これらの作品は印刷物やウェブサイトなどジオパークの魅力を伝える媒体に効果的に使用されています。ジオパークとして養成、認定されたガイドは「丘のまちびえい DMO」が認定するガイドとの緊密かつ柔軟な協力体制のなかで、ガイドツアーや体験プログラムを地域に定着させるとともに、収益事業として成り立たせようとしています。こうしたジオツーリズムを含む体験型観光の定着や、オーバーツーリズムへの対応を通じて、持続可能な観光を行う地域へと変化しようとする動きはユネスコ世界ジオパークの目指すところです。

【今後の課題・改善すべき点】

Ⅰ　緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね１年以内）

1. 白金温泉の解説看板やブルーリバー橋には噴火時の注意喚起と一時避難場所の表示が見られるものの、一般の宿泊客の目に入る場所に噴火災害のリスクと避難方法が伝わる情報がまだ不足しています。十勝岳火山防災協議会と連携を取るとともに、宿泊施設の理解を得ながら、防災・教育部会と観光・ツーリズム部会の共通課題として必要な情報発信のあり方を検討し改善してください。

Ⅱ　できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

2. ほとんどの情報媒体は分かりやすい言葉で作成されていますが、難解なジオサイト名がそのまま見どころとして表示されているマップ、網羅的ではあるがやや魅力に欠ける拠点施設の共通展示など、一般の観光客に「複雑」「難かしそう」と感じられしまう資料や展示が一部に見られるため、デザイナーなど情報伝達の専門家との協働で改善を行ってください。
3. 既存の景観計画との整合を図りながら、十勝岳ジオパークならではの手法でさらなる視認性向上のための取り組みを進めてください。ジオパークの来訪者の情報収集方法や周遊ルートを分析し、滞在する期待や楽しみ方が伝わるようなサイン計画をできるだけ早く立案した上で、主要道の圏域入り口、主要サイトに向かう分岐点、JR の駅、道の駅およびウェブサイトなどにサインの配置や情報提供を順次進めてください。
4. また、外国から多くの観光客が来訪する地域であるため、多言語で入手できる資料の拡充を進めてください。

Ⅲ　中長期的に解決すべき事項

5. 農業のまちとしての側面は本地域を特徴づけるものであり、丘のまち郷土学館、上富良野町郷土館、土の館など、拠点となる施設も充実しています。農業景観、災害からの復興の物語に加え、開拓から培われた土づくりの苦労や技術革新など、農業や土壌に関連する歴史・文化的側面や研究成果についてもジオパークの扱う資産としてより明確に位置づけるとともに、各施設／農業団体／直売所などとジオパーク推進協議会との双方にメリットのある取り組みを連携して進めてください。
6. 「波状丘陵」について、自然地形としての成因と価値および人の働きかけでできた農業景観としての価値について、さらなる科学的な研究・整理を行うとともに、伝え方についても工夫が必要です。
7. 今後、ガイドツアー、地域学習、減災教育、産業連携など、多分野に及ぶジオパークの活動を本格的に運営する上で十分な人員がいるとは言えない状況です。2町連携のもと事務局体制の強化について検討してください。また、スタッフのジェンダーバランスがまだ不均衡であり改善が望まれます。
8. 農家の許可を得てガイド同行で畑の中を歩くツアーは好事例です。JGN の他地域との学び合いを通して、サステナブルツーリズムの視点で課題解決に挑戦する活動をさらに拡げてください。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4 年後の再審査の際の審査対象とします。

以上